

0.殖蓮村第75号墳はなぜ残ったか？

古墳調査から見えてきた地域の底力

八幡沼＝稲作用に掘られた人造貯水池（ため池）

30尺X12尺の小さな古墳

周濠のように水でとりかこまれているからか？

この弁天島が古墳だと知る人はほとんどいなかった



1. 八幡沼は人造貯水池(ため池)

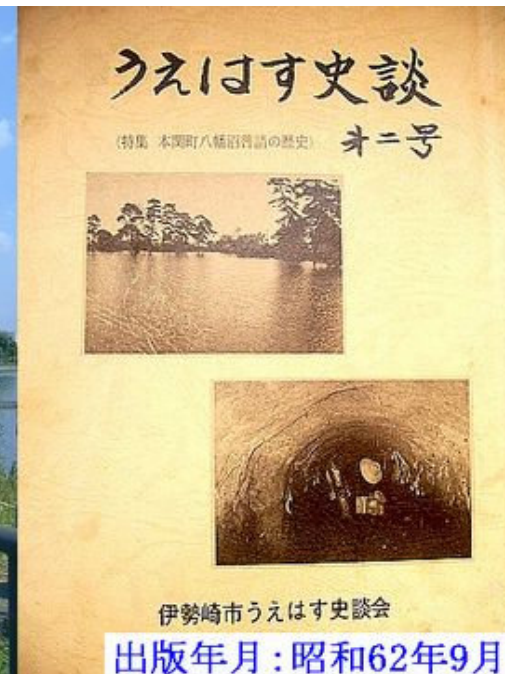
(1) 八幡沼の碑

(2) 地域に残された記録

⇒ 村民(農民)の生活がかかった稲作 ⇒ 大土木工事を挙行

第75号墳に関する確実な記録はありません。⇒ 本報告も推測になります事をご了承をお願いします。

上毛古墳綜覧 殖蓮村調査担当者																			
茂呂村	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
村長																			
石八生吉寺永永千黒茂小小横櫻須常堤赤栗川矢島大																			
原木方井内谷澤吉崎木保林瀬井元日熊九石原端門島田木																			
易彦良恒菊き幾敏一三英只英日熊九石原端門島田木																			
三重雄子子ん郎二郎郎夫一雄子登郎三晉雄郎昨雄蔵																			
島																			



2. 大規模農地開拓で消滅した古墳もあった

地域で行われた大規模の農地開拓が、山林、原野等にあった古墳の消滅の一因となったと考えられます。その背景に人口増加があったようです。

開拓記念之碑:「昭和8年4月総工費金五千八百余円投ぜし尊き事業の竣工(十三町歩余)」(耕地整理組合を設立して開拓を実行)



殖蓮村=1889年(明治22年)、上植木村、下植木村、八寸(はちす)村が合併し成立する。「植」を「殖産興業」の「殖」に、「はちす」を極楽浄土の「蓮」にとり、「殖蓮」としたとの事だ。産業の発展と地域の繁栄を願った命名。

3. 本関町古墳群で残った古墳例

一ノ関古墳(史跡:殖蓮村第71号墳;前方後円墳)、第75号墳(無指定:円墳)
第75号墳は八幡沼の中で残りました。



殖蓮地区の古墳数・人口・戸数	
上毛古墳総覧(昭和13年)	
記載古墳総数=	8423基
佐波郡殖蓮村の古墳数=	338基
(佐波郡殖蓮村郷土誌)(明治43年頃)	
人口=	4414人
戸数=	703戸
殖蓮公民館資料(2016年1月1日現在)	
(殖蓮地区の人口と世帯数)	
人口=	21,303人
世帯数=	9,003戸

4. 八幡沼敷地(多分村有地)にあった神社と古墳(伝承)をはどうなったか？

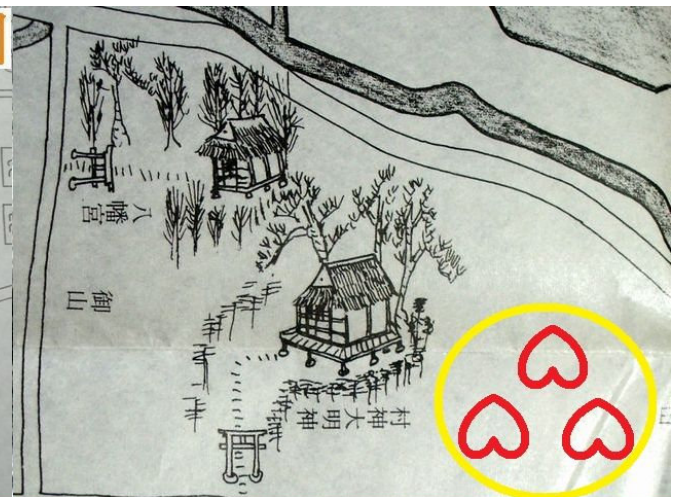
大規模土木工事の用地選定・開削決定に関して村民の間で残すという合意があったと推定。

古い沼は干ばつの時役立たない⇒新しい沼を作ろう！

八幡沼は八幡宮の跡地に作られ、八幡宮は上樹神社に合祀。

「迅速測図」には八幡沼(新沼)に弁天島の記載はありません。

「敷地内北部分に三丘(古墳と推定)があった。現在は弁天島がある。」(うえはす史談 第二号)



5. 八幡沼の古墳は波に浸食されずに残った！

- (1) 弁天島が沼の相当北側にあり伝承の位置に合う。
- (2) 弁天島や堤防が良く写っており、良好に維持管理されており、ため池として機能している。
- (3) 弁天島が波で浸食されれば、古墳の崩壊もあったと推定
- (4) 波志江沼の弁天島は波の浸食で水没？
- (5) 弁天島が古墳なら、古墳は残ったろう(推測)。



(3) 記念碑建立：八幡沼開削150年記念；歴史を語り継ぐ。

農林水産省「ため池百選」のサイトより引用



DSC=2013/10

7. 弁天島と古墳が結びついた一瞬！

「弁天島に古墳がありそうです！」という情報
⇒ 弁天島が古墳であるという間接的証言と
考えます。

- (1) 建築関係者：八幡沼の弁天島の工事をした時、鉄の杭を打ったがコチンと石に当たって、杭が入りませんでした。下に古墳がありそうです。
- (2) 元水利役員：護岸工事の時、弁天島の石を叩いたら、空洞の音がした。石棺だろう。
- (3) 幼少時に弁天島に泳いで渡った女性：弁天島はお供えの餅のように水際がくびれていた（浸食しにくかった？）
- (4) 少数の関係者は弁天島が古墳だと認識していたようですが、一般の人は単なる弁天島と見ていたようです。

8. なぜ古墳を弁天島にしたか？（推定）

推定

- (1)水の神である弁財天を祭り、沼を守る。
- (2)弁天島の波消し効果で沼を守る。（土地改良の専門家の説。）
- (3)移転した神社の機能を古墳で代用（祭祀の場）？
- (4)江戸末期の村民も古墳は古代人の墓と認識（祖先崇拜）？

参考メモ：

老朽化した波志江沼（波志江沼環境ふれあい公園）の弁天島の工事前調査：古い弁天島は、版築という工法で土が突き固められていた（耐久性に配慮した工事がされていた）。

八幡沼の弁天島=(1)+(2)？

9.上毛古墳綜覧をどう解釈するか？

八幡沼開削時の伝承等が綜覧に反映されていそうだ

③市町村名	墳番号	⑤墳形	⑥現状	⑦発掘の有無	⑧所在地			⑨地目	⑩規模		⑫所有者	⑬出土品	⑭備考(由來、徴證、文獻)
	番号			有無	大字	小字	番地		大きさ				
									1	2			
									数値	数値			
佐波郡殖蓮村	75	圓型	沼ノ中	不詳	上植木	八幡	1,215	山林	30	12	村有地	(記載なし)	(記載なし)
佐波郡殖蓮村	76	圓型	沼ノ底	有	同	同	1,215	(記載なし)	不詳	(記載なし)	同	刀ニロ	石棺出シトイフ

上毛古墳綜覧の調査は八幡沼開削から71年目
現況と綜覧記事から推測すると；

(A) 殖蓮村75号墳：弁天島として保存(推測)

(B) 殖蓮村76号墳：平削(推測)

10. これは殖蓮村76号墳の残骸か？

終戦後・渇水期の沼底の航空写真

第75号墳の北側の白い部分は第76号墳の残骸か？

古墳綜覧には第76号墳は発掘層があり、
沼底にあると記載されている。

上毛古墳綜覧の調査は夏（満水期）に行われている。



11. 第75号墳と弁天島の一体化は謎？

雨乞い等の神頼みの習俗(神輿、屋台)⇒効果が確実な土地改良へ(ため池・用水路の開発)⇒神仏への信仰の衰退

八幡沼の弁天島が古墳であるという確実な記録は、上毛古墳綜覧以外に見当りません。「綜覧台帳」には、「現在弁財天ヲ祭ル」と記録されています。当時の村民達は、この古墳を平削せずにあつた場所にそのまま残し、そこに弁財天を祭り、移転合祀した神社に代わる、ため池の守りとしたのではないのでしょうか？ 弁財天の石祠の有無等についての調査は今後の課題です。



12. 第75号墳はなぜ残ったか？

⇒共同体意識⇒合理主義・協同事業・協同組合(近代的組織)⇒近世～近代への過渡期のバランス精神が影響したと考えます。

江戸末期:神社を移転してため池を作る⇒大胆な発想。
自然観・宗教観・世界観・の変化:⇒合理主義・人間主義

稲作

古墳

神仏

ため池

大事業を行える共同体(部族・氏族・寺社・村落)

土木技術・農業技術等のインフラ

地理・気候等の環境インフラ

13. SMALL IS BEAUTIFUL

佐波郡殖蓮村第75号墳は、沼の開削に際し、村民が残す選択をして、その後も八幡沼の維持管理を地域で続ける中で、今日まで残ったものと考えられます。今回の調査で改めて、地域の人々の底力を感じました。今後は、第75号墳が、八幡沼の弁天島古墳と呼ばれ、地域の人々に古墳として親しまれ、末永く保存される事を願って、調査報告とさせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。



出典:伊勢崎市

上野国佐位郡正倉跡(国指定史跡):八面甲倉の基石配列